



## 2018年度活動報告 CJP授業 : 調査・報告5

著者	浅津 嘉之
雑誌名	関西学院大学日本語教育センター紀要
号	8
ページ	74-74
発行年	2019-03
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10236/00028108">http://hdl.handle.net/10236/00028108</a>

## 2018 年度活動報告 CJP 授業：調査・報告 5

浅津 嘉之（関西学院大学日本語教育センター）

### 1. クラス概要

本授業は上級前半の学習者を対象とした必修科目であり、目標は 1) 関心のある身近なテーマについて考えを深め、上級前半の表現を使ってまとめることができるようになる、2) アンケート調査を行い、その結果を図表にまとめて、レポートを執筆することができるようになる、3) レポートの内容について話し合ったり、発表したりすることができるようになるである。授業は週 2 回（1 回 90 分）全 28 回である。教科書は特に指定せず、教師が必要と考えたものを適宜提示したり、先学期の学習者のレポート作品や日本語ネイティブの論文を参考にしたりした。

### 2. 授業内容

授業は大きく 3 つの構成で組み立てられている。学期中の最初の 3 分の 1 が「レポートに関する基礎知識の学習」であり、レポートの基本的な構成や表現、アンケートの種類や特徴といった知識を、レポート用の教材やこれまでの学習者のレポート、実際の論文などを参考に確認する。次の 3 分の 1 は「アンケートの作成・実施・分析」であり、自分で決めたテーマについてそれまでに学んだ知識を使って実際にアンケートを作成して調査を行う。最後は「レポート執筆」であり、調査結果を文章化する。

また、授業では、読み手がいることを常に意識してテーマ決定からアンケート調査、執筆までの作業に取り組めるよう、適宜、調査結果の発表会やピアレスポンスを行ったり、日本語ネイティブの学生をボランティアとして招待し、原稿へのコメントをもらったりした。

### 3. 成果と今後の課題

期末アンケートでは、受講生全員（18 秋は 6 名）が「書く活動に満足している」と「宿題の内容や量は適切だった」に「そう思う」と回答した。調査や執筆など、教室外での自主的な活動が必要とされる授業デザインであったが、学習者に過度な負担とはなっていなかったようである。一方、自由記述には、モデルとなる参考資料がもつとほしいという回答が 2 名から出されていた。これに対しては、有効な参考資料を教師側から提示するだけでなく、学習者が必要に応じて自分で探せるように仕掛けることで対応していきたい。